２６年３月１０日　校長講話

みなさんは「津波てんでんこ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。この言葉は、東北地方に伝わる言葉です。**「てんでんこ」は「てんでんばらばらに」の意味。**もともとは自分だけでも高台に逃げろという考え方を示していますが、現在の三陸地方では自分の命は自分の責任で守れという教訓として使われています。東日本大震災の津波による釜石市の死者・行方不明者は１０００人以上にのぼりました。しかし、釜石市の学校に通う小中学生全生徒２９２６人中、学校を休んでいたなどの５人を除く全員が津波から逃れたといいます。その**生存率はなんと 99.8%です。**

これを「釜石の奇跡」といいます。なぜ奇跡はおきたのか？釜石の小中学生は学校で「地震が起きたらてんでんこ」と学んでいたのです。私たちも知っておかなければいけません。ポイントだけお話します。３つあります。

①「想定にとらわれるな」
相手は自然。何が起きてもおかしくありません。ハザードマップで浸水しないと示されているからといって安全だと思いこむことは大きな落とし穴です。「多分大丈夫だろう」と避難しなかった人がたくさん亡くなっています。
②「ベストを尽くせ、最善を尽くせ」
自然は何を引き起こすかわからないからこそ、自分ができるギリギリの行動をしてください。これ以上もう何もやることはないというところまでの、あらゆることをし尽くすことが大切です。そして、最善を尽くしたのであれば、その結果は受け入れるしかないのです。
③「率先避難者になれ」
自分が自分の判断で逃げることが大切なのです。まさに「でんでんこ」です。てんでんばらばらに自分の命を守ることで、**実は周りの多くの命を守ることにつながるの**です。もし「お母さんが帰ってくるまで家にいよう」と家にいれば、一番危ない時にお母さんは家に来なければいけません。自分の命を自分で守っているとお母さんが信じていれば、両方助かります。また、周辺にいた大人達の命も救いました。「おじいさんさん、ここはまだ危ない。もっと上に行こうよ」と子どもたちは声をかけたそうです。足の不自由なおばあさんを背負った小学校６年生もいたそうです。大人にまけない「想像力」や「判断力」で危機を乗り切った釜石の子どもたちの体験は、「危機脱出」のモデルケースとして日本だけでなく世界からも注目を集めています。

今日は震災3年目です。国は約１万７千人が亡くなったその悲劇を忘れないように「国旗は半旗にして時間になったら黙祷すること」にしています。今亡くなった方の冥福をお祈りして、ここで黙祷します。「黙祷」 運動場の国旗は上まで揚げずに途中で止まっていますから、「震災をわすれないぞ」と思ってください。